

人件費課題

あなたの会社では、地域で活躍している工業分野のプロフェッショナルをゲストに呼んで、工芸美術品を作成するという取り組みをしています。

今回、7 月の取り組みとして5人のプロフェッショナルに依頼し、7 つの工芸品を作成しました。それぞれのプロフェッショナルの専門分野は違っており、違う作業を担当しています。1 日のうち、違う作品を手掛けることもあります。

それぞれの工芸品は美術館などに販売します。

そこで、5 人のプロフェッショナルの作業日報から、毎日の何時にどの作品を手掛けていたかの表を作成しました。

そこから、7 つの作品それぞれで人件費がどのくらいだったか調べ、利益率が適正かチェックしたいと思います。

データ

P1 シート～P5 シート

それぞれのプロフェッショナルごとに 1 シートになっていて作業日ごと、時間帯ごとにどの作品を手掛けているか記録している。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	日付	9:00	10:00	11:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
2	7月1日	QX6	QX6	QX6	QX6	QX6	QX1	QX5	QX5
3	7月2日	QX2	QX2	QX2	QX2	QX2	QX2	QX2	QX2
4	7月3日	QX5	QX5	QX5	QX5	QX5	QX6	QX6	QX6
5	7月4日	QX7	QX7	QX7	QX7	QX6	QX6	QX6	QX3
6	7月5日	QX3	QX3	QX3	QX3	QX3	QX3	QX3	QX7
7	7月6日								
8	7月7日								
9	7月8日	QX5	QX5	QX5	QX2	QX5	QX6	QX1	QX5
10	7月9日	QX3	QX1	QX1	QX5	QX1	QX6	QX7	QX1
11	7月10日	QX5	QX5	QX5	QX5	QX5	QX5	QX2	QX2
12	7月11日	QX5	QX5	QX5	QX5	QX7	QX7	QX2	QX7
13	7月12日	QX3	QX3	QX3	QX3	QX4	QX1	QX5	QX3
14	7月13日								
15	7月14日								
16	7月15日								
17	7月16日	QX1	QX1	QX1	QX1	QX1	QX1	QX1	QX7
18	7月17日	QX2	QX1	QX1	QX1	QX1	QX1	QX1	QX1

スタッフシート

それぞれのプロフェッショナルに支払う時給が記載されている。

	A	B
1	プロID	時給
2	P1	3000
3	P2	3500
4	P3	3800
5	P4	4000
6	P5	5000
7		

作品シート

それぞれの作品の見積金額と材料費が記載されている。

	A	B	C
1	作品ID	見積金額	材料費
2	QX1	1542000	678000
3	QX2	1454000	625000
4	QX3	2677000	1231000
5	QX4	1278000	524000
6	QX5	2193000	680000
7	QX6	1319000	422000
8	QX7	1721000	843000
9			

集計シート

このシートに最終的な集計を行う

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	作品ID	見積額	材料費	人件費	経費	利益	利益率	利益率33%の場合の適正見積額
2	QX1							
3	QX2							
4	QX3							
5	QX4							
6	QX5							
7	QX6							
8	QX7							
9	合計							

※必要に応じてこのほかにシートを追加してもよい

STEP1

1 か月で、それぞれのプロフェッショナルが、それぞれの作品に対して何時間の作業をしたかを次の手順でまとめます。

作品シートの D1 から H1 のセル範囲に、「P1」から「P5」を入力します。

セル範囲 D2 から H8 のセル範囲に、それぞれのプロフェッショナルが、それぞれの作品に対しての作業時間を「P1」から「P5」シートを元に求めます。

作品シートの I1 から M1 のセル範囲に、「P1 依頼費」から「P5 依頼費」を入力します。

セル範囲 I2 から M8 のセル範囲に、それぞれのプロフェッショナルが、それぞれの作品に対しての依頼費を「スタッフ」シートの時給を元に求めます。

作品シートのセル N1 に、「合計」と入力します。

セル範囲 N2 から N8 のセル範囲に、それぞれのプロフェッショナル依頼費の合計を求めます。

その合計の結果を集計シートの人件費に記載します。

STEP2

「集計」シートそれぞれの項目を以下のように計算します。

経費は、材料費と人件費を足し、さらに見積額の 10% を管理費として加算します。

利益は、見積額より経費を差し引いて求めます。

利益率は、利益を見積額で割って求めます。

利益率 33% の場合の適正見積額は、経費から 66% を割って求めます。

それぞれの合計を 9 行目に求めます。

表内の金額の数値にカンマ区切り、利益率は小数点以下 1 桁のパーセント表示にします。利益率のパーセンテージは 0 未満の数字は表示しないように設定します。

STEP3

それぞれの作品で、見積額と利益率 33% にした場合の適正見積額が比較でき、さらに利益率も記載されているグラフを以下の通り作成します。

作成位置は A10 から H26 のセル範囲にします。

見積額と利益率 33% にした場合の適正見積額は棒グラフ、利益率は折れ線グラフにします。

グラフタイトルは「見積額と適正見積額」とします。

見積額と利益率 33% にした場合の適正見積額の軸ラベルは「円」、利益率の軸ラベルは「利益率」とします。

すべてのデータにデータラベルを表示します。